

南郷谷地域における大規模災害前後の災害意識の変化に関する分析

Study on change of consideration about disasters focusing on huge disaster in Nango-dani area, Mt. Aso

熊本大学工学部社会環境工学科 松田 佳祐

1. はじめに

本研究は災害と共存するにあたり、災害意識の構造を示すことを目的とする。災害意識とは、災害を防ぐという考えだけでなく、過去におきた災害が生活の中で意識されること、災害の知覚そのものを含んだ意識と考える。南郷谷における 6.26 水害という大規模災害後における集落変遷の分析から、災害意識のモデルの構築を目指した。

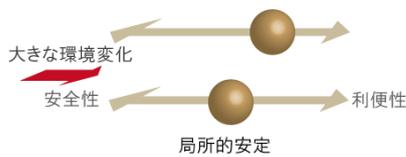


図 1 災害意識の概念図

はじめに、災害意識を定義した。1)災害意識は集団意識である。2)災害意識には局所的安定があり、大きな環境変化によって変化する。3)変化の方向性として、本研究では安全性—利便性という、トレードオフの関係を持つ軸を用いる。

2. 南郷谷における災害の歴史

南郷谷地域の災害履歴を整理し、災害の特性を分析する。その後、本研究で扱う災害事例を決定し、対象災害における既存報告の整理を行う。

3. 6.26 水害における被害状況の記録

本地域において災害特性を反映し、甚大な被害を出した 6.26 水害に着目し、文献調査及び、住民へのヒアリングから被害状況の整理を行った。結果を図 2 に示す。



図 2 6.26 水害被害状況図

6.26 水害において、阿蘇方面での降水量が多かったことから、中央火口丘側の山地崩壊が見取れる。これらの崩壊によって生まれた土砂が南北方向に流れる白川の支流によって運ばれその川沿いに被害をもたらした。また、低地部の水田地

帯には、山崩れや山津波によって土砂や巨石が埋め尽くした。

4. 復興過程における集落変遷の記述

本章では本地域における主な復興内容である河川改修と砂防堰堤建設について整理し、現地調査及び、航空写真により集落の集散・移動など変遷の実態を把握した。

南郷谷地域の中でも、6.26 水害の被害が大きく、特徴的な変化がみられた吉田三区・中松地区、また変化を示さなかった一関地区の3集落に注目して集落変遷の分析を行った。その結果吉田三区は地域内における高台への移転。中松地区は被害の少ない農地と災害時の家屋建設地の交換という特徴が見られた。

5. 災害意識のモデルの構築

集落変遷の分析から、集落の変遷要因として以下の4点が考察された。1)災害履歴、2)地域の地形的要因、3)集落の持続的要因、4)外部環境の変化、以上の要因を踏まえ、災害意識の挙動を示すモデルを構築し、図 3 に示す。また、構築したモデルを中松・一関・吉田三区に適用しその挙動について検証を行った。

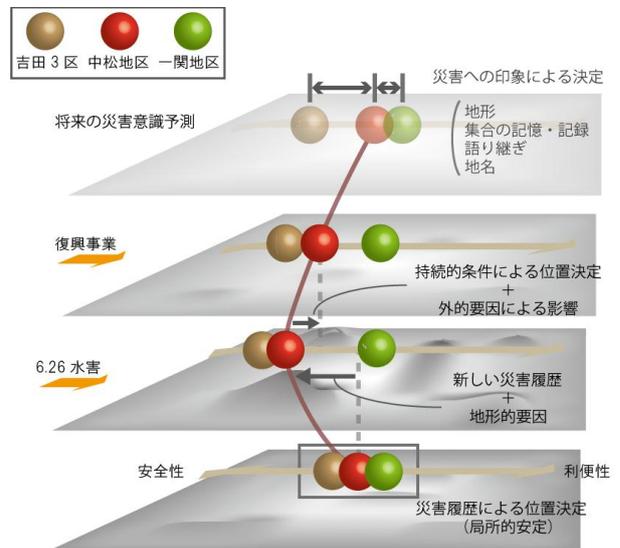


図 3 災害意識のモデル

6. おわりに

本研究における成果として、1)6.26 水害の被害状況の可視化、2)災害後における集落変遷の要因の抽出、3)災害意識のモデルの構築、以上3点が挙げられる。また、今後の課題として、1)他地域におけるモデルの適用及び、妥当性の確認、2)災害意識を測る尺度を見出すこと、3)災害意識を適正に保つための手段の提示。以上3点が挙げられる。